



吉川友子後援会報

2021(令和3)年1月

あなたとわたし 友&愛

No 32

発行：吉川友子後援会
会長 上野昭久
会計 高塚紀之

幹事長 田村至
事務局長 滝澤さや香



佐久水道企業団議会で水源の現地調査をした時の写真です。佐久地域は水が豊かで、家庭に配水されるほぼすべてが湧水と地下水です。これを守り続けたいと心に誓いました。

吉川友子

吉川友子ホームページ



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。旧年中は、議会活動や地域活動において大変お世話になりました。みなさまのおかげで、昨年も地域や議会でも多くの活動に取り組みことができました。感謝申し上げます。昨年からは世界中で流行している新型コロナウイルス感染症は、私たち一人一人の生活に大きな影響を及ぼしています。一日も早く人々が対面で集い、食事をしたり笑ったり、イベントを開催したりできるようになるよう、みなさんと一緒に努力していきます。医療関係の方々への献身的なご尽力に心から敬意を表し、少しでもお役に立てるよう活動していきます。

世界中で起きている災害や感染症も、地球温暖化などの環境問題と無関係ではありません。私たちが望む地球環境の維持を、多くの人と一緒に考え行動していきます。世界各国の政府は2050年目標を立てていますが、多くの研究者はこれからの10年が勝負だと言います。私たちがこれから10年、どのような行動をするかで、地球の未来が変わってきます。佐久市においても、農地や山林の維持、自然エネルギーへの取り組み、人口減少や持続可能な地域社会の実現などの課題をみなさんと一緒に考え、三期目の議会活動を目指して、活動してまいります。

本年もみなさまのご健康とご多幸を心からお祈りします。

コロナ禍を乗り越え

より暮らしやすい佐久市を目指して

新型コロナウイルス感染症は私たちの暮らしを大きく変えています。商店のみならず、またイベントや集会の中止にもなって、自由業と言われる方々の暮らしも大変です。病院など医療関係で働く方々のご苦労には頭が下がります。この困難を乗り越えるための支援がとても大切です。そして、この中で未来に向けてどのような地域づくりをしていくのか、行政や議会の役割も重要です。私は、次のような課題に取り組んでいく所存です。

- ① 子供の貧困などに対する対策を強化し、「ここで子育てしたいと思える街づくり」に取り組み、孤立しない子育て環境をつくる
- ② 子どもの通学や高齢者のために、公共交通の充実を進める
- ③ 自然保育や環境教育を重視し、子どもの多様な成長を支える活動を支援する
- ④ 地球環境問題を市民のみならずととも学習し、今私たちができることを提案・実践する。佐久市に存する広大な山林を守り活用する
- ⑤ 過疎化対策、人口減少問題に取り組む。都市からの移住を促進し、耕作放棄地や空き家問題解決にもつなげる
- ⑥ 佐久地域の医療体制の一層の充実をはかる。川西赤十字病院の存続と発展を支え、全面建て替えを支援する体制を整える
- ⑦ 望月サテライト校の発展を支える(裏面に一般質問)
- ⑧ 行政や議会、委員会や団体などで、女性が活躍できる条件を整える
- ⑨ 猫や犬の命も大切に活動を通して、やさしさと支え合いの社会を作る一助とする
- ⑩ 地域の課題を市民のみならずと共有し、地域に根差した市民活動を進め、自然や文化や伝統などの地域資源を生かした地域づくりを進める

地域猫の活動に多額なご寄付・・・本当にありがとうございました

地域猫の活動に対しては、多くの方からご依頼をいただき、現地へ向いて解決のために努力してまいりました。一時は我が家も子猫10数匹になりましたが、もらってくださる方も多く、今は1匹です。ご寄付の資金は、猫の去勢手術の費用などに使わせていただきます。



こども環境学会シンポジウムで登壇 2020.11.28

「こども環境学会」全国大会プレセミナーに

パネリストとして参加

長野県自然保育推進議員連盟副代表として

■11月28日行われた「こども環境学会」主催の全国大会プレセミナーにパネリストとして参加させていただきました。子どもたちが健全に育つ環境づくりとして大人は何ができるか、それぞれの立場から発言がありました。大人たちがあまり口や手を出さず、子どもを忍耐強く見守ること、その大切さが多く語られました。多様性を認め合う社会においては、子どもの意見もよく聞き、自分の考えや価値観を押し付けないことが重要だと感じました。■12月20日には、自然保育推進議員連盟と長野県との共催で、オンラインシンポジウムを開催しました。自然保育実践園の大切さや課題も明らかになりました。

佐久市議会 YouTube チャンネルが開設されました。

私が委員長を務める広報広聴特別委員会は、今年度開催できなかった議会報告を動画でお伝えしています。これからは各委員会などから動画がアップされる予定ですので、ぜひチャンネル登録してください。



女性議員連盟として、12月24日に柳田市長と懇談をいたしました。

これまで、(株) ャッホーブルーイングや(株) はたらクリエイトといった女性が働きやすい環境の会社を視察、子育て中の移住者との意見交換などをし、市長へは佐久市として率先して女性が活躍できるような環境づくりを提言しました。

第三回定例議会(8月26日から9月25日)

■吉川友子議員の一般質問

長野西高望月サテライト校に

一層の支援を

(吉川) 長野西高望月サテライト校についてお聞きします。生徒数、どの地域から、下宿住宅等改修補助金の利用状況は、そして職員体制はどんな内容でしょうか。

(望月支所長) 生徒数は男性29名、女性49名、合計78名で佐久市内が約50%、うち望月地区が約5%、小諸市が約20%、その他上田市、東御市、南北佐久地域から約30%、県外からの応募はありません。下宿住宅等改修補助金の利用は8月末現在ではありません。下宿を希望する生徒もありませんでした。

職員体制は、教諭、講師、事務、スクールカウンセラー、学校医を含め、30名程度とお聞きしています。月曜日・水曜日は本校で日曜日に開講された内容と同じ内容を受講することができます。火曜日は学び直しや大学入試に対応した授業を受講できます。木曜日はキャリア教育の授業、金曜日には特別活動に参加することができます。空き時間には、レポート作成やメディア視聴による学習、勉強以外の相談を受けることができます。

(吉川) より多くの学生が通えるようになることを期待します。小さなお子さんがいる生徒さんもいるようなので、託児室などを設置するということも、県と交渉していただきたいと思います。そういった多様なニーズに応えることで、多くの生徒さんが望月のサテライト校を選んで応募してきてくれるようになると思います。市としてもさまざまな支援をお願いします。

環境に配慮した行政の取組み

(吉川) グリーンコンシューマーとは、環境ラベルのついた商品を購入したり、省エネルギー商品を積極的に導入したりするなど、環境に配慮した行動をする消費者の

ことですが、第二次佐久市環境基本計画や一般廃棄物処理基本計画にも出てくる「グリーンコンシューマーの育成のための啓発」はどのようなことを行っているのでしょうか。

(環境部長) 市では第二次環境基本計画において循環型社会の実現に向け、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進をしており、その施策のひとつとして、グリーンコンシューマー育成のための啓発活動に取り組めます。無駄なものを買わずに必要な分だけ買う、買物はマイバッグを持参する、過剰包装の辞退などを推進することです。家電製品や自動車省エネ製品に変える、公共交通機関を利用する、クールビズのライフスタイルなど、また食材は近くで生産されたものを選ぶ、といった内容で、環境負荷の少ないライフスタイルへの改革を進めるためグリーンコンシューマーの育成に努めていきます。

(吉川) こみの減量化、資源化は重要です。市としてどのような取り組みをしていますか？

(環境部長) 今年度、事業系、一般廃棄物大量排出事業者50社に対して分別方法や減量化策、資源化策を確認し、さらなる取り組みについて協力をお願いします。

学校での除草剤使用は再検討を

(吉川) グリホサートは、国際がん研究機関が「発がん性の可能性あり」とし、世界中の多くの国でグリホサートの使用に禁止または規制をかけています。佐久市では、学校でグリホサート系の除草剤を使用していますか。それはどのような場所ですか。

(学校教育部長) 小学校でグリホサート系の除草剤を使用している学校は17小学校のうち15校です。中学校では7中学校すべての学校で使用しています。駐車場周辺などのほか、フェンス側、またコンクリートやインターロッキングの隙間などに使用しています。

(吉川) グリホサートは植物のシキミ酸経路をブロックして、アミノ酸が作れないようにします。人間にはそのシキミ酸経路がないから、人間に害はない、というのがメーカーの説明ですが、人間の腸内細菌はそのシキミ酸経路を持っているのです。グリホサートは腸内細菌、特に小さい子ども腸内細菌に変異を与えるという研究結果も発表されています。腸内細菌とアレルギーや免疫力の関係、さらには脳への影響など指摘されています。今後学校でグリホサート系除草剤は使用していくのか、伺います。

(学校教育部長) 学校で使用する除草剤については、農薬取締法における登録品を使用します。この登録品は農林水産省により発がん性やその他、毒性に関わる試験に合格したもので、適正な使用の限りにおいて国によって安全が確認されていると認識しています。

(吉川) 安曇野市では教育関連施設での除草剤は使用していない、池田町でもできるだけ人体に影響の少ないものを選択するようにしたと伺っています。国際産婦人科連合は科学的証拠と予防原則に則り、グリホサートの使用は世界規模で禁止すべきという勧告を発表しました。ぜひ、そういったことも考慮していただき、今後は止める方向で検討してください。



第四回定例議会(11月26日から12月22日)

■吉川友子議員の一般質問

気候非常事態宣言どう生かすか

(吉川) 気候危機により、気温の上昇や干ばつ、洪水・台風などの災害の増加、感染症の拡大、生物多様性の損失、食糧不足など、私たちの生活に様々な影響を及ぼしています。世界の気温が1度上昇すると、10億人が現在の場所に住めなくなる、というニュースもありました。県下で起きた大規模な災害も、気候変動が大きな要因です。佐久市議会は気候非常事態宣言を決議しました。市当局としてこの決議を施策にどう生かしていくのか、伺います。

(柳田市長) 佐久市でも近年最高気温が頻繁に更新されていることや、令和元年東日本台風のような気象災害が今後増加すると予測されます。市としても本決議を重く受け止め、佐久市議会と共同で気候非常事態宣言を表明しました。2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向け、各種施策に取り組んでいく考えです。

(環境部長) 市として次の基本方針を立てました。①省エネルギーの推進。②再生可能エネルギーの利用促進。③街の低炭素化の推進(住宅やビルの新築、増改築時には、省エネルギーに配慮した設備をするなど)④災害に強いまちづくりの推進。⑤3Rの推進(マイバッグ持参、ごみの発生抑制、資源循環に配慮した事業活動やグリーン購入の重要性など)。⑥クールチョイス等の周知による地球温暖化対策への意識啓発。⑦県等との連携です。

(吉川) 再生可能エネルギーの地産地消は、本当に大事なことです。PGS(気候変動に關する政府間パネル)のレポートには、先住民の伝統的な知恵を統合することで、適応策の有効性が向上する、と書かれています。佐久市でも、昔の知恵を生かして適応策に取り組んでほしいと思います。17歳の環境活動家グレタさんは、気候変

動を危機ととらえ、すぐに行動してほしい、と訴えています。市は先頭となり、行動をしていただきたいと思います。

産後ケアの充実を

(吉川) 現在行っている産後ケア事業の内容や実績、利用者の声、今後の計画をお聞かせください。

(市民健康部長) 現在行っている、助産師が訪問し、身体的、心理的ケアや授乳指導を行うアウトリーチ型の産後ケア事業に加え、宿泊型産後ケアを計画しています。(吉川) 宿泊型産後ケアは、特に初めてお母さんになる方にとっては本当に心強いサポートですので、期待しています。

こども環境学会連携協定に期待

(吉川) 「こども環境形成ガイドライン」と、今年の7月に締結された「こども環境学会との連携協定」について伺います。

(柳田市長) 本市では本年7月、公益社団法人こども環境学会と包括連携協定を締結しました。野沢会館、野沢児童館、県民佐久運動ひろば、臼田地区新小学校について提案をいただいています。長期的な連携も計画しています。

(吉川) こども環境学会には多くの分野の専門家の先生方がいらっしやるので、ソフト面でもご助言いただけることを期待しています。子育てのトップランナーに向けた施策について伺います。

(柳田市長) 佐久市における人の創生を基本目標の一つとし、①地域一体となった子育て環境の構築②保育施策の推進、③第三子以上の出産を促進する施策、④移住を検討する人々への情報発信、などです。

(吉川) 「孤立しない子育て」、佐久市なら仲間がいるから一緒に子育てできる!と思えることがとても重要だと感じています。自然保育なども含め、魅力ある子育て環境が佐久市に増えていくよう、私たちも努力していきたいと思っています。